

小山工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	電気電子実践英語	
科目基礎情報							
科目番号	0112			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電気電子創造工学科			対象学年	5		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	配布資料						
担当教員	山田 靖幸						
到達目標							
1. 技術的・専門的な英文を理解し、日本語で説明できる。 2. 技術的・専門的な事柄を英語で発表できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	技術的・専門的な英文を理解し、日本語で適切に説明できる。			技術的・専門的な英文を理解し、日本語で説明できる。		技術的・専門的な英文を理解できない。	
評価項目2	技術的・専門的な事柄を英語で適切に発表できる。			技術的・専門的な事柄を英語で発表できる。		技術的・専門的な事柄を英語で発表できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 ⑥ JABEE (A) JABEE (d-1) JABEE (E) JABEE (g)							
教育方法等							
概要	技術的・専門的な英文の読解や英語による発表の実践的な方法を学ぶ。 講義はスライド資料等による教授と専用プリントにより行う。 (参考書: Richard Cowell ほか「マスターしておきたい技術英語の基本-決定版-」(コロナ社), Charles Alexander and Matthew Sadiku "Fundamentals of Electric Circuits, 6th Edition" (New York: McGraw-hill Education) 等)						
授業の進め方・方法	1. 授業方法は講義と演習や発表等を適宜組み合わせで行う。 2. この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習として、レポートまたは小テストを課す。						
注意点	・再試験実施対象者については、試験返却時に別途申し伝える。 ・学生からの質問を大いに歓迎する。電子メールも可。 ・2/3以上の自学自習レポート提出または小テスト受験を必須とする(自学自習テーマは配布プリントに記載)。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	論文の種類や構成, 論文検索		論文の種類や構成, 論文検索について理解する		
		2週	いろいろな数式, 三角関数, 指数関数・対数関数		いろいろな数式, 三角関数, 指数関数・対数関数に関する英語表現を理解する		
		3週	いろいろな図形, 座標		いろいろな図形, 座標に関する英語表現を理解する		
		4週	電気回路: 電荷と電流, 電圧		電荷と電流, 電圧に関する英語表現を理解する		
		5週	電気回路: 電力とエネルギー		電力とエネルギーに関する英語表現を理解する		
		6週	電気回路: オームの法則		オームの法則に関する英語表現を理解する		
		7週	電気回路: キルヒホッフの法則		キルヒホッフの法則に関する英語表現を理解する		
	8週	前期中間試験		これまでの範囲を理解する			
	2ndQ	9週	プレゼンテーションスライドの作成方法		プレゼンテーションスライドの作成方法について理解する		
		10週	スライドの作成演習 1 回目 (1): オームの法則, キルヒホッフの法則		オームの法則, キルヒホッフの法則についての英文を読み, 英語による発表スライドを作成する		
		11週	スライドの作成演習 1 回目 (2): オームの法則, キルヒホッフの法則		オームの法則, キルヒホッフの法則についての英語による発表原稿を作成する		
		12週	発表 1 回目: オームの法則, キルヒホッフの法則		オームの法則, キルヒホッフの法則について発表と質疑応答を行う		
		13週	スライドの作成演習 2 回目 (1) キャパシタンス, インダクタンス		キャパシタンス, インダクタンスについての英文を読み, 英語による発表スライドを作成する		
		14週	スライドの作成演習 2 回目 (2) キャパシタンス, インダクタンス		キャパシタンス, インダクタンスについての英語による発表原稿を作成する		
		15週	発表 2 回目: キャパシタンス, インダクタンス		キャパシタンス, インダクタンスについて発表と質疑応答を行う		
		16週	まとめ		これまでの範囲のまとめを行う		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	中間試験		発表		事前・事後学習		合計
総合評価割合	30		20		50		100
基礎的能力	0		0		0		0
専門的能力	30		20		50		100
分野横断的能力	0		0		0		0